

種 類	性 質・特 徴	活 動 時 期 ← / 攻 撃 性 の 高 ま る 時 期 →											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コガタスズメバチ 	・体長 22～30mm ・オオスズメバチに似ている ・攻撃性は低い ・市街地でもよく見られる ・巣の場所…樹上や軒下など、開放空間を好む 初期の巣は、逆さにしたトックリ型で、働き蜂誕生後はキイロスズメバチに似たボール型になる	活動初期は、女王蜂しかいなく、ほぼ刺してくることは無い。働き蜂誕生後、巣の活動が盛んになる、7月から10月にかけては、攻撃性が増し、特に注意が必要。被害のおそれがある、どの種類のハチにも当てはまるが、作られては困るところで発見したら、早めの駆除が必要。											
キイロスズメバチ 	・体長 17～28mm ・全身に占める黄色の割合が多い ・凶暴で高い攻撃性 ・市街地でもよく見られる ・巣の場所…初期は閉鎖空間に作り、手狭になると軒下など、開放空間に引っ越すことが多い ・国内のスズメバチでは、最も小型の種である	活動初期は、女王蜂しかいなく、ほぼ刺してくることは無い。働き蜂誕生後、巣の活動が盛んになる、7月から11月にかけては、攻撃性が増し、特に注意が必要。都市部での勢力を拡大し、様々な場所に巣を作り、性質も凶暴、国内では最大級の巣をつくるハチである。											
オオスズメバチ 	・体長 27～45mm ・体は国内のハチ最大、デカイ！ ・高い攻撃性と、非常に強い毒をもつ国内最強バチ ・森林や市街地でも樹林地や雑木林にいる事もある ・巣の場所…木の根元や樹洞、土中などのため、気づかず巣に近づき、襲われることがある	活動初期は、女王蜂しかいなく、ほぼ刺してくることは無い。働き蜂誕生後、巣の活動が盛んになる、8月から10月にかけては、攻撃性が増し、特に注意が必要。土中など外から巣を発見しにくい、山登りやハイキングなどの際には、特に警戒が必要。											
アシナガバチ 	・体長 14～26mm ・種により大きさがだいぶ異なる ・気性はおとなしい ・市街地でもよく見られる ・巣の場所…軒下や生垣の中など、どこにでも作る。植込みなどに気付にくい場所の巣にうっかり近づき、刺されることの多いハチである。	女王蜂のみが越冬し、3～4月頃から巣作りをはじめ、9月には営巣活動を終了する。スズメバチより早い時期に巣の最盛期をむかえ高い攻撃性を示すが、こちらから巣を刺激することがなければ、(刺されれば痛い)危険性の低いハチである。											
ミツバチ 	・体長 10～12mm ・攻撃性は低い、巣に危険を感じると攻撃する。針には返しがあり、ミツバチは1回刺すと自分の内臓まで抜き落ち、死んでしまう。 ・巣の場所…養蜂場の巣箱、野生では木のうろ(樹洞)や床下のなどの閉鎖空間に作る	ミツバチは集団で巣を作るハチの中では数少ない、女王蜂以外も越冬できる。冬眠するのではなく、巣に残った女王蜂・働き蜂が身を寄せ合って体温を高め、越冬する。越冬前と越冬あけ、また、年間を通し、巣への敵とみなす者には攻撃性が高まるとされる。											

ハチに関する俗説は、本当なのだろうか？

- ①一度人を刺したハチは、死ぬのか？
―ミツバチの場合、針に返しがあり刺した針は内臓ごと刺した相手に残り死んでしましますが、スズメバチやアシナガバチの針には返しがないので、何度でも刺すことができます、死にません。
- ②刺されたら、おしっこをかけるといい？
―尿をかけると傷口に雑菌の入る可能性と成分のアンモニアにはハチの毒を中和させる作用は無いため、間違った俗説です。
- ③ハチに2回以上刺されると人は死ぬのか？
―体質によって、一度刺されて死ぬ人もいれば、何回刺されても死なずに済む人もいます。一回刺され蜂毒アレルギーを持った人の中で、約一割の人は、二回目以降に命に関わる危険性が高まるといわれています。

スズメバチとアシナガバチの違いなど

大きな違いとして、巣の形が異なります。スズメバチの巣で、軒下や樹上などの開放空間に作られるものの多くは、大きくなるとボール型の形をして、巣の回りが外皮で覆われ、穴から働き蜂が出入りにしています。

一方、アシナガバチの巣は外皮がなく、卵を産み、幼虫から蛹、成虫へと育てる上げる育房が集まった巣盤がむき出しになっています。

外皮で覆われている巣を持つスズメバチの方が、アシナガバチの巣に比べ温度変化や外敵より身を守るためか、活動期間が長いようです。

但し両者とも、冬になると働き蜂や雄蜂は死に絶え、新女王蜂はどこかの枯木の中などで越冬し、ハチのいなくなった巣は二度と使われることなく、朽ちていきます。



🐝 アシナガバチの巣の一例



🐝 スズメバチの巣の一例

刺されないためには…

- ・多くのハチはつかまない限りほぼ刺しませんが、巣に近づきすぎたり、巣に石など投げて刺激したりすると、ハチは巣に危害を加える敵と判断して、襲ってきますので、巣に近づかない、巣を悪戯しないことが大切です。
- ・日常生活上、施設管理上支障のあるところに作られた巣は、必要に応じて駆除を行います。攻撃性・毒性の高いスズメバチの駆除は業者に依頼するのが無難です。
- ・黒い服や、ヘアスプレーや香水などの匂いに反応して、攻撃してくる場合があります。巣の近くや山登りなど屋外活動の際には、そのような恰好や匂いが無いように気をつけましょう。
- ・ハチにまとわりつかれた時、手で払うのは我慢して、姿勢を低くしてハチが去るのを待ち、静かにその場から離れます。

刺された時の対処法

- ・刺されたらまずハチのいる場所から出来るだけ遠くの安全な場所に離れて下さい。
- ・刺された傷口を流水で洗い出しながら毒を絞り出すようにして洗い流して下さい。針に返しのあるミツバチの場合は、針が傷口に残っている場合があります、その場合は針を毛抜きのようなものでつまんで毒嚢を圧迫しないように抜いて下さい。
- ・抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏（虫刺され薬）を塗布して下さい。薬を塗ったあとは、患部を冷やし、安静にします。
- ・具合が悪くなったり、アレルギー（アナフィラキシーショック）症状が出たり、また、過去にハチに刺されて具合が悪くなった方は、直ちに医療機関を受診して下さい。

蜂の巣、駆除現場

蜂の巣駆除には、危険が伴います。特にスズメバチは、攻撃性・毒性も強く、殺虫剤片手に丸腰で向うのには、刺されるリスクが高まりますので、専門駆除業者に依頼をおすすめします。

植込みの中や樹洞（木のうろ）に作られた巣などは、発見に手間取ることもあります。

弊社でも対応しておりますので、お困りの方は、ご相談下さい。



植込み内にあった、アシナガバチの巣

樹洞内のスズメバチの巣

人に危害を加える恐れが無ければ、放っておいても冬になれば巣は解散します



①樹林帯の中で樹洞(うろ)に作られた巣



②殺虫剤散布中



③巣を撤去後、詰め物をした状況



④回収した巣とハチ

ハチの巣駆除は、昼間出かけている働き蜂が帰巢している、夕方から夜間に実施するとより効果的ですが、作業時間など諸条件で、実際は昼間に駆除する事が多いです。

年間では8月～10月に蜂の巣駆除依頼はピークをむかえます。